

資料 12 鎌倉市燃やすごみ戸別収集アンケート調査 最終報告書

1. はじめに

1.1. 調査の背景と目的

本報告書は、鎌倉市で実施している燃やすごみの戸別収集に関する市民アンケートの調査結果をまとめたものである。戸別収集の導入による市民生活への影響、満足度、課題等を多角的に分析し、今後のごみ収集行政の改善に資する基礎資料とすることを目的とする。

1.2. 調査概要

項目	内容
調査対象	本調査は、対象エリア内の人口比に基づいて各地域からの抽出数を決定し、無作為抽出法により調査対象者を選定した。 この抽出方法により、各地域の人口構成を反映した標本を確保することで、調査結果の信頼性と妥当性を高めている。無作為抽出の採用により、特定の属性や意見に偏ることなく、対象地域住民の意見を公平に収集することが可能となった。
調査期間	2025年7月30日～2025年8月29日
調査方法	Web アンケートおよび紙の調査票
有効回答数、有効回答率	1,436件、71.8% (1436/2000)
調査項目数	26問

1.3. 本報告書の構成

本報告書は、単純集計による全体傾向の把握、クロス集計による属性別の詳細分析、自由記述意見の分析から構成される。

2. 回答者の属性

本調査に協力いただいた回答者の基本的な特性を以下に示す。

性別

回答者の性別構成は、「女性」が777人（有効回答の63.4%）と最も多く、次いで「男性」が429人（35.0%）であった。

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
男性	429	29.9	35.0
女性	777	54.1	63.4
答えたくない	20	1.4	1.6
無回答	210	14.6	-
合計	1436	100	100

年齢

回答者の年齢構成は、50代が284人（20.2%）と最も多く、次いで70代（255人、18.2%）、60代（201人、14.3%）の順となっている。

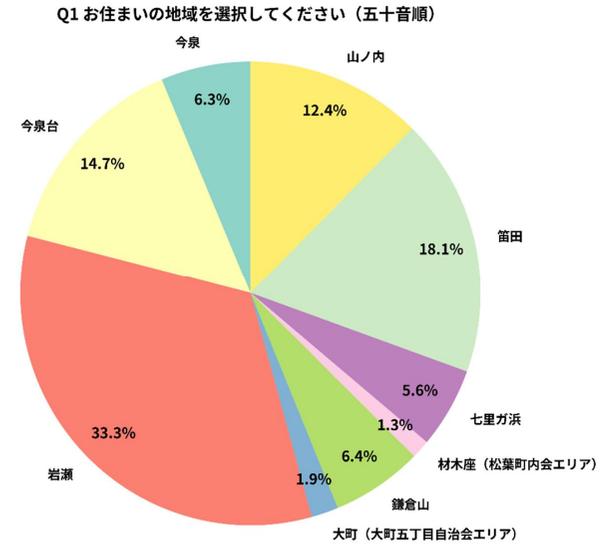
選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
20歳未満	35	2.4	2.5
20歳代	102	7.1	7.3
30歳代	164	11.4	11.7
40歳代	192	13.4	13.7
50歳代	284	19.8	20.2

60歳代	201	14.0	14.3
70歳代	255	17.8	18.2
80歳以上	170	11.8	12.1
無回答	33	2.3	-
合計	1436	100	100

3. 全設問の単純集計結果

Q1: お住まいの地域を選択してください (五十音順)

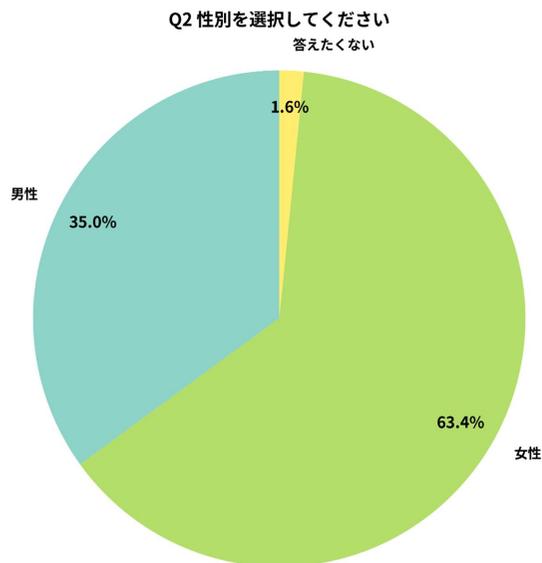
選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
今泉	77	5.4	6.3
今泉台	180	12.5	14.7
岩瀬	407	28.4	33.3
大町 (大町五丁目自治会エリア)	23	1.6	1.9
鎌倉山	78	5.4	6.4
材木座 (松葉町内会エリア)	16	1.1	1.3
七里ガ浜	69	4.8	5.6
笛田	221	15.4	18.1
山ノ内	152	10.6	12.4
無回答	213	14.8	-
合計	1436	100	100



分析: 回答者の居住地域は岩瀬 407 人 (33.3%)、次いで笛田 221 人 (18.1%)、今泉台 180 人 (14.7%) となっている。

Q2: 性別を選択してください

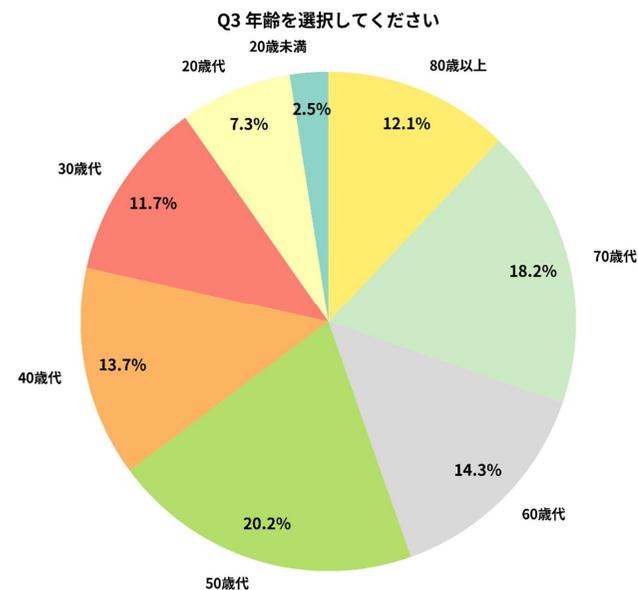
選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
男性	429	29.9	35.0
女性	777	54.1	63.4
答えたくない	20	1.4	1.6
無回答	210	14.6	-
合計	1436	100	100



分析: 回答者の性別は女性が 777 人 (63.4%) と約 3 分の 2 を占め、男性 429 人 (35.0%) を大きく上回っている。

Q3: 年齢を選択してください

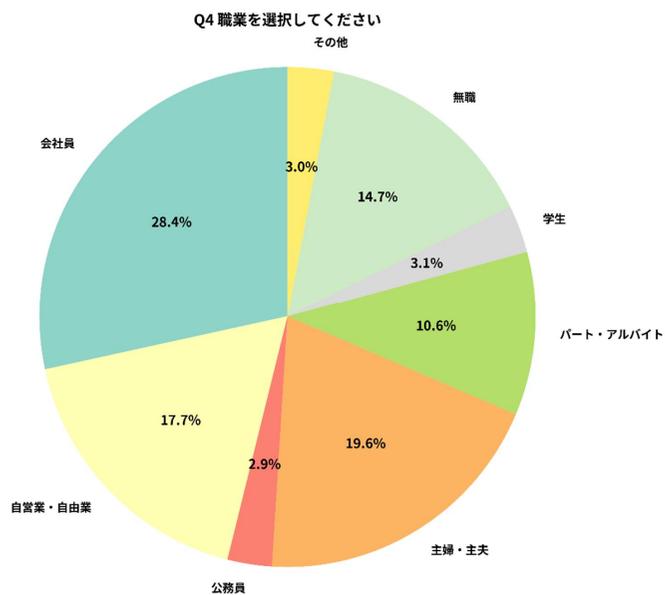
選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
20 歳未満	35	2.4	2.5
20 歳代	102	7.1	7.3
30 歳代	164	11.4	11.7
40 歳代	192	13.4	13.7
50 歳代	284	19.8	20.2
60 歳代	201	14.0	14.3
70 歳代	255	17.8	18.2
80 歳以上	170	11.8	12.1
無回答	33	2.3	-
合計	1436	100	100



分析: 年齢構成では 50 代が 284 人 (20.2%) と最も多く、次いで 70 代 255 人 (18.2%)、60 代 201 人 (14.3%) となっており、中高年層の回答が多い傾向にある。

Q4: 職業を選択してください

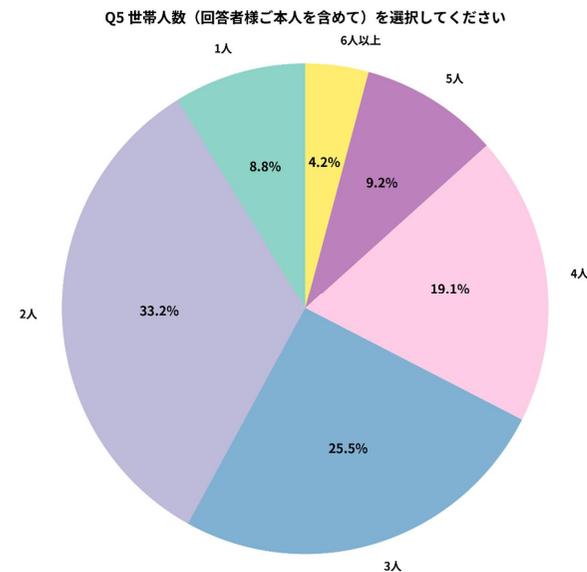
選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
会社員	409	28.4	28.4
自営業・自由業	253	17.6	17.7
公務員	41	2.9	2.9
主婦・主夫	280	19.5	19.6
パート・アルバイト	152	10.6	10.6
学生	44	3.1	3.1
無職	210	14.6	14.7
その他	43	3.0	3.0
無回答	4	0.3	-
合計	1436	100	100



分析: 職業別では会社員 409 人 (28.4%) が最多で、次いで主婦・主夫 280 人 (19.6%)、自営業・自由業 253 人 (17.7%) となっている。

Q5: 世帯人数 (回答者様ご本人を含めて) を選択してください

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
1 人	119	8.3	8.8
2 人	450	31.3	33.2
3 人	345	24.0	25.5
4 人	258	18.0	19.1
5 人	125	8.7	9.2
6 人以上	57	4.0	4.2
無回答	82	5.7	-
合計	1436	100	100

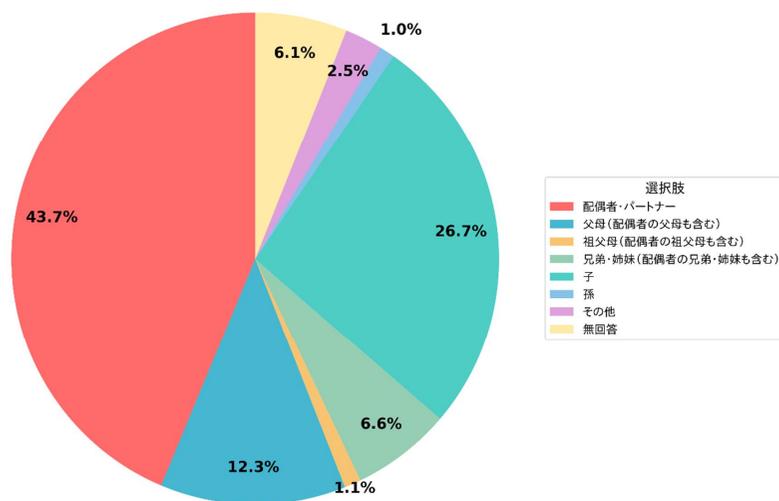


分析: 世帯人数は 2 人世帯が 450 人 (33.2%) と最も多く、次いで 3 人世帯 345 人 (25.5%)、4 人世帯 258 人 (19.1%) となっている。

Q6: 世帯に含まれる方全てを選択してください (複数回答可)

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
配偶者・パートナー	895	43.7	62.3
父母 (配偶者の父母も含む)	253	12.3	17.6
祖父母 (配偶者の祖父母も含む)	23	1.1	1.6
兄弟・姉妹 (配偶者の兄弟・姉妹も含む)	136	6.6	9.5
子	548	26.7	38.2
孫	21	1.0	1.5
その他	51	2.5	3.6
無回答	125	6.1	-
合計	2052	100	134.3

Q6 世帯に含まれる方全てを選択してください。(複数回答可)

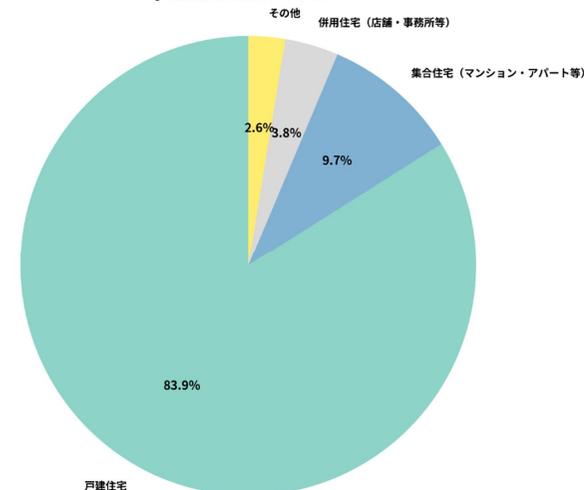


分析: 世帯構成では配偶者・パートナーがいる世帯が 895 人 (62.3%) と最も多く、子がいる世帯が 548 人 (38.2%) となっている。複数回答可の設問のため合計が 100%を超えている。

Q7: 住居形態を選択してください

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
戸建住宅	1182	82.3	83.9
集合住宅 (マンション・アパート等)	137	9.5	9.7
併用住宅 (店舗・事務所等)	54	3.8	3.8
その他	37	2.6	2.6
無回答	26	1.8	-
合計	1436	100	100

Q7 住居形態を選択してください

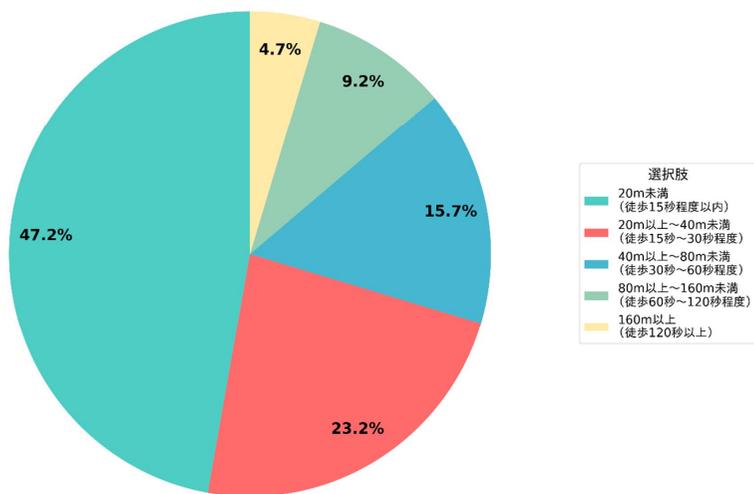


分析: 住居形態では戸建住宅が 1182 人 (83.9%)、集合住宅は 137 人 (9.7%) となっている。

Q8: 自宅からクリーンステーション（現在、燃やすごみ以外の品目を排出しているごみ集積所）までの距離を選択してください

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
20m 未満（徒歩 15 秒程度以内）	660	45.9	47.2
20m 以上～40m 未満（徒歩 15 秒～30 秒程度）	324	22.6	23.2
40m 以上～80m 未満（徒歩 30 秒～60 秒程度）	219	15.3	15.7
80m 以上～160m 未満（徒歩 60 秒～120 秒程度）	128	8.9	9.2
160m 以上（徒歩 120 秒以上）	66	4.6	4.7
無回答	39	2.7	-
合計	1436	100	100

Q8 自宅からクリーンステーション（現在、燃やすごみ以外の品目を排出しているごみ集積所）までの距離を選択してください

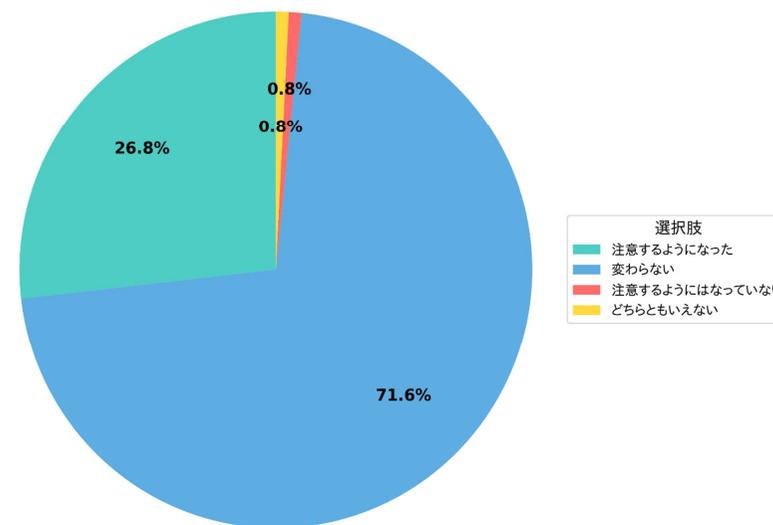


分析: クリーンステーションまでの距離は 20m 未満が 660 人（47.2%）と約半数を占め、20m 以上 40m 未満が 324 人（23.2%）となっている。

Q9: クリーンステーション収集の時に比べ、ごみの分け方や出し方を注意するようになりましたか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
注意するようになった	381	26.5	26.8
変わらない	1019	71.1	71.6
注意するようにはなっていない	12	0.8	0.8
どちらともいえない	12	0.8	0.8
無回答	12	0.8	-
合計	1436	100	100

Q9 クリーンステーション収集の時に比べ、ごみの分け方や出し方を注意するようになりましたか

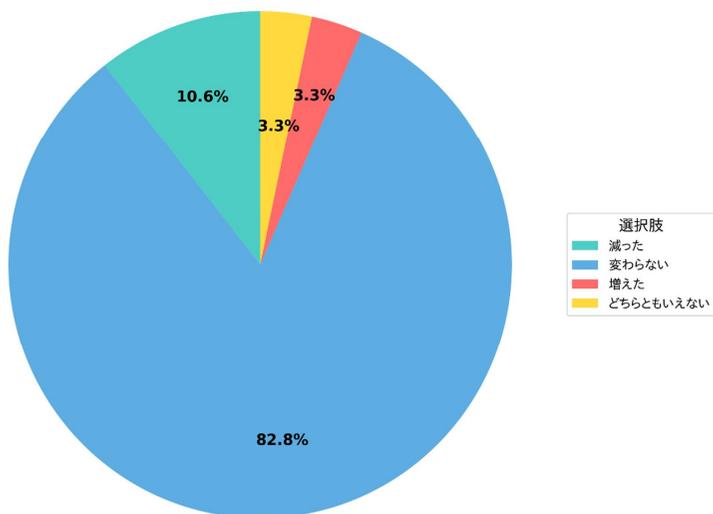


分析: ごみの分け方や出し方への注意については「変わらない」が 1019 人（71.6%）と最も多く、「注意するようになった」は 381 人（26.8%）である。

Q10: 戸別収集になってから、燃やすごみの量に変化がありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
減った	150	10.4	10.6
変わらない	1168	81.3	82.8
増えた	47	3.3	3.3
どちらともいえない	47	3.3	3.3
無回答	24	1.7	-
合計	1436	100	100

Q10 戸別収集になってから、燃やすごみの量に変化がありますか

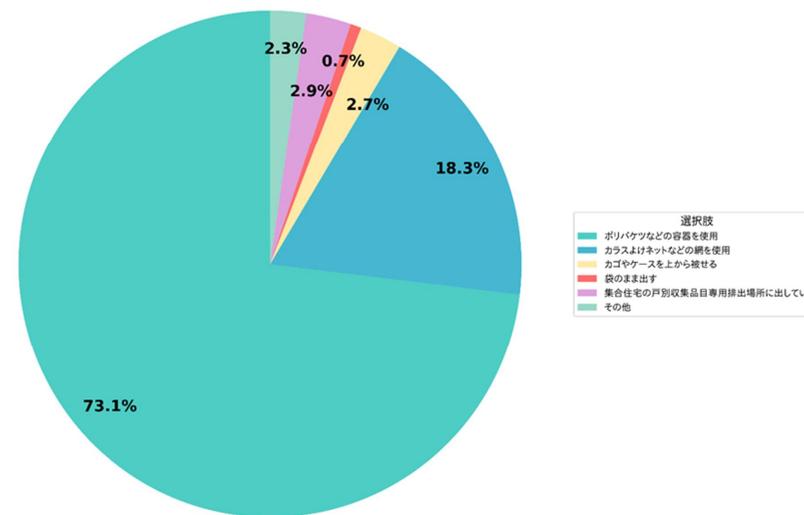


分析: 燃やすごみの量の変化では「変わらない」が1168人(82.8%)と大多数を占め、「減った」は150人(10.6%)である。戸別収集導入がごみ減量に直接的な影響を与えているとはいえないが、一部世帯においては、ごみの減量効果が見られる。

Q11: 燃やすごみをどのような方法で出していますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
ポリバケツなどの容器を使用	1042	72.6	73.1
カラスよけネットなどの網を使用	261	18.2	18.3
カゴやケースを上から被せる	38	2.6	2.7
袋のまま出す	10	0.7	0.7
集合住宅の戸別収集品目専用排出場所に出している	42	2.9	2.9
その他	33	2.3	2.3
無回答	10	0.7	-
合計	1436	100	100

Q11 燃やすごみをどのような方法で出していますか



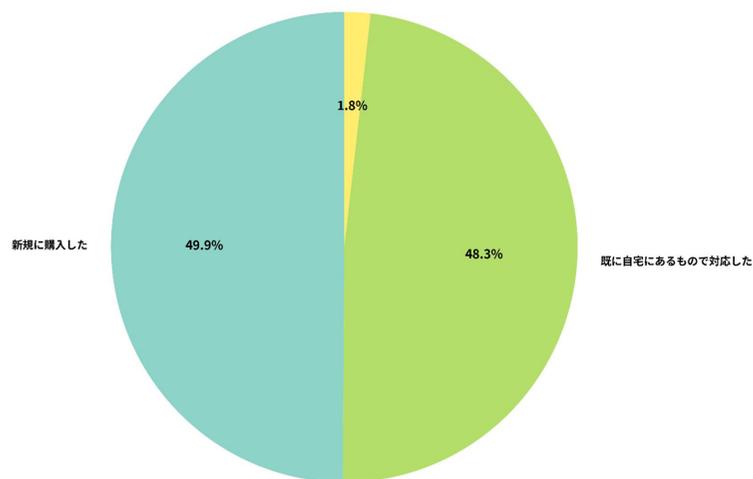
分析: 燃やすごみの排出方法では「ポリバケツなどの容器を使用」が1042人(73.1%)と圧倒的多数を占めている。市民の多くが動物被害対策として容器を使用していることが確認できる。

Q12: 排出容器はどのようにご準備されましたか

(問 11 で「1.ポリバケツなどの容器を使用、2.カラスよけネットなどの網を使用、3.カゴやケースを上から被せる」を選択された方にお尋ねします。)

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
新規に購入した	677	47.1	49.9
既に自宅にあるもので対応した	655	45.6	48.3
その他	24	1.7	1.8
無回答	80	5.6	-
合計	1436	100	100

Q12 排出容器はどのようにご準備されましたか
その他

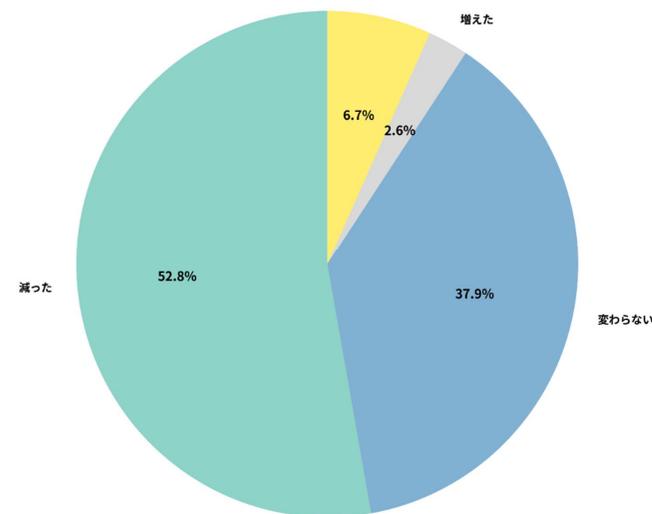


分析: 排出容器の準備方法では「新規に購入した」が 677 人 (49.9%) と約半数を占め、「既に自宅にあるもので対応した」が 655 人 (48.3%) とほぼ同数である。戸別収集導入に伴い、多くの市民が新規購入に限らず何らかの準備を行ったことが分かる。

Q13: クリーンステーション収集の時に比べ、カラス等の被害に変化はありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
減った	736	51.3	52.8
変わらない	529	36.8	37.9
増えた	36	2.5	2.6
どちらともいえない	94	6.5	6.7
無回答	41	2.9	-
合計	1436	100	100

Q13 クリーンステーション収集の時に比べ、カラス等の被害に変化はありますか
どちらともいえない

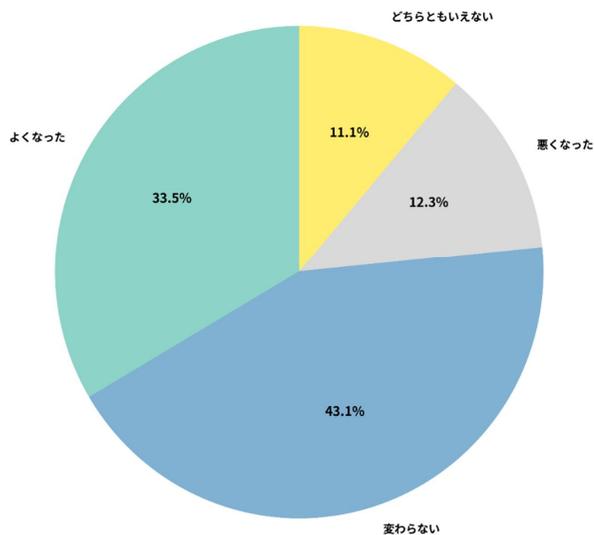


分析: カラス等の被害変化では「減った」が 736 人 (52.8%) と過半数を占め、戸別収集によりカラスの被害が減少したことが明確に示されている。「変わらない」も 529 人 (37.9%) いるが、「増えた」は 36 人 (2.6%) と非常に少なく、カラス等への対策として高い効果を発揮している。

Q14: クリーンステーション収集の時に比べ、景観に変化はありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
よくなった	472	32.9	33.5
変わらない	608	42.3	43.1
悪くなった	174	12.1	12.3
どちらともいえない	156	10.9	11.1
無回答	26	1.8	-
合計	1436	100	100

Q14 クリーンステーション収集の時に比べ、景観に変化はありますか

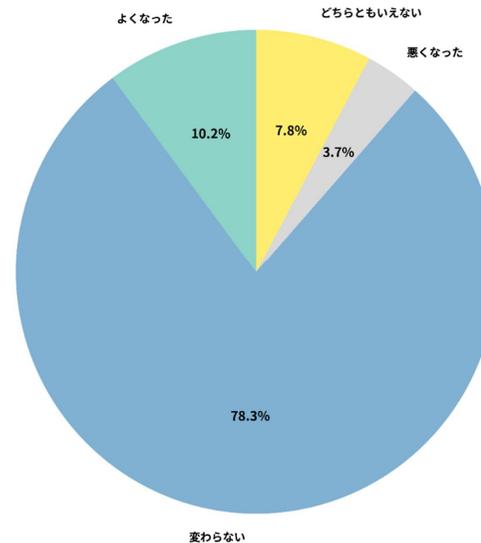


分析: 景観の変化では「よくなった」が472人(33.5%)、「変わらない」が608人(43.1%)となっている。約3分の1の市民が景観改善を実感しており、戸別収集が街の美観向上に寄与していることが確認できる。一方で、「悪くなった」が174人(12.3%)となっている。

Q15: クリーンステーション収集の時に比べ、地域のコミュニケーションに変化はありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
よくなった	145	10.1	10.2
変わらない	1108	77.2	78.3
悪くなった	52	3.6	3.7
どちらともいえない	111	7.7	7.8
無回答	20	1.4	-
合計	1436	100	100

Q15 クリーンステーション収集の時に比べ、地域のコミュニケーションに変化はありますか

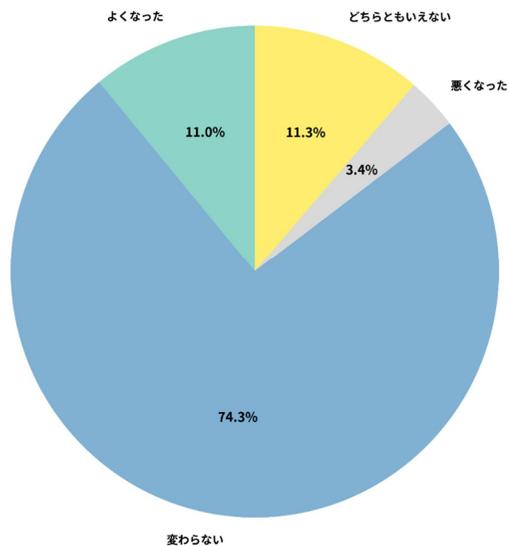


分析: 地域のコミュニケーションの変化では「変わらない」が1108人(78.3%)と大多数を占めている。「よくなった」は145人(10.2%)で、戸別収集がコミュニティに大きな影響を与えているとはいえないが、「地域のコミュニケーションの希薄化に与える影響」も限定的(52人、3.7%)であることがわかる。

Q16: クリーンステーション収集の時に比べ、地域の治安に変化はありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
よくなった	156	10.9	11.0
変わらない	1054	73.4	74.3
悪くなった	48	3.3	3.4
どちらともいえない	160	11.1	11.3
無回答	18	1.3	-
合計	1436	100	100

Q16 クリーンステーション収集の時に比べ、地域の治安に変化はありますか

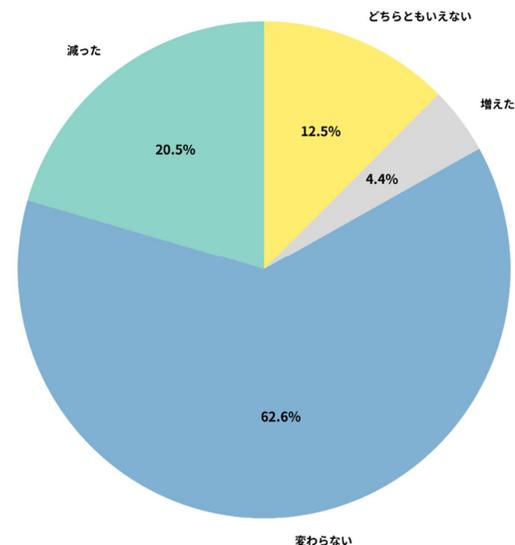


分析: 地域の治安の変化では「変わらない」が 1054 人 (74.3%) と最も多く、「よくなった」は 156 人 (11.0%) である。治安面での大きな変化はないことが確認できる。

Q17: クリーンステーション収集の時に比べ、ポイ捨てや不法投棄に変化はありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
減った	290	20.2	20.5
変わらない	889	61.9	62.6
増えた	62	4.3	4.4
どちらともいえない	177	12.3	12.5
無回答	18	1.3	-
合計	1436	100	100

Q17 クリーンステーション収集の時に比べ、ポイ捨てや不法投棄に変化はありますか

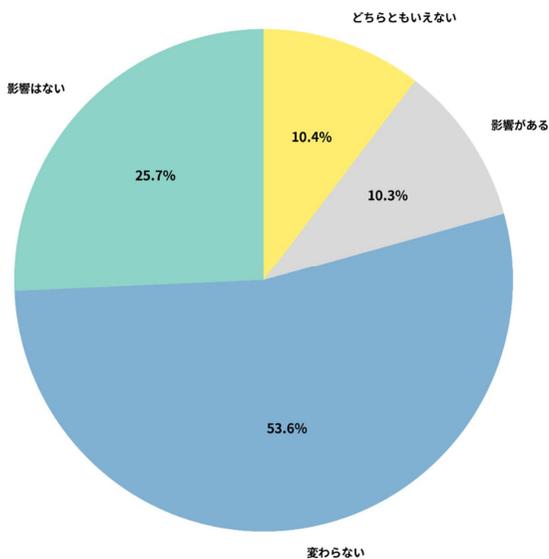


分析: ポイ捨てや不法投棄の変化では「変わらない」が 889 人 (62.6%) と最も多いものの、「減った」も 290 人 (20.5%) と一定数いる。戸別収集により不法投棄等の改善効果も期待できることが示されている。

Q18: クリーンステーション収集の時に比べ、プライバシーに影響がありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
影響はない	365	25.4	25.7
変わらない	761	53.0	53.6
影響がある	146	10.2	10.3
どちらともいえない	148	10.3	10.4
無回答	16	1.1	-
合計	1436	100	100

Q18 クリーンステーション収集の時に比べ、プライバシーに影響がありますか

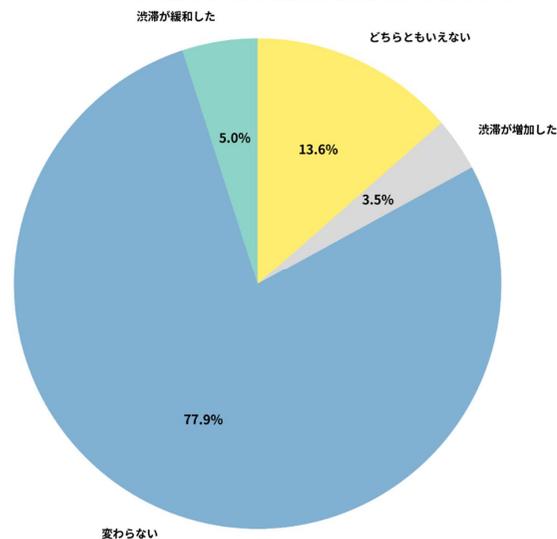


分析: プライバシーへの影響では「変わらない」が 761 人 (53.6%) と最も多く、「影響はない」も 365 人 (25.7%) いる。一方で「影響がある」は 146 人 (10.3%) となっている。

Q19: クリーンステーション収集の時に比べ、交通渋滞等道路環境に変化はありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
渋滞が緩和した	71	4.9	5.0
変わらない	1103	76.8	77.9
渋滞が増加した	49	3.4	3.5
どちらともいえない	192	13.4	13.6
無回答	21	1.5	-
合計	1436	100	100

Q19 クリーンステーション収集の時に比べ、交通渋滞等道路環境に変化はありますか

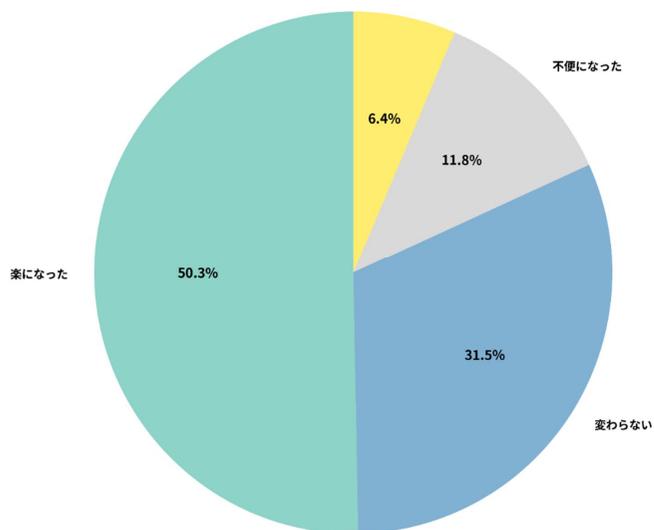


分析: 交通渋滞等道路環境の変化では「変わらない」が 1103 人 (77.9%) と大多数を占めている。「渋滞が増加した」は 49 人 (3.5%) と少なく、道路環境への影響は限定的であることが分かる。

Q20: クリーンステーション収集の時に比べ、ごみ出しの負担に変化はありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
楽になった	715	49.9	50.3
変わらない	447	31.1	31.5
不便になった	168	11.7	11.8
どちらともいえない	91	6.3	6.4
無回答	15	1.0	-
合計	1436	100	100

Q20 クリーンステーション収集の時に比べ、ごみ出しの負担に変化はありますか
どちらともいえない

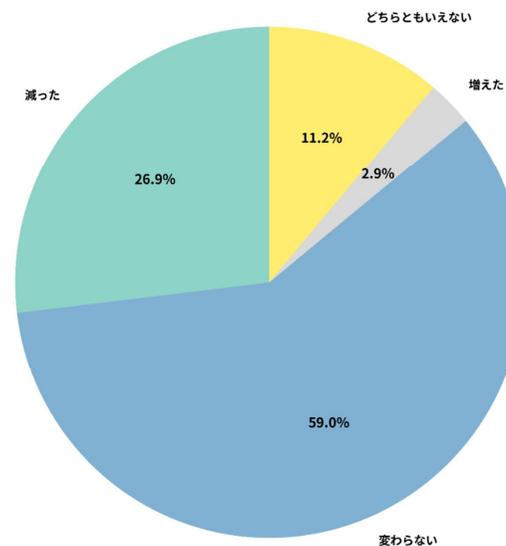


分析: ごみ出しの負担変化では「楽になった」が715人(50.3%)と半数を超え、戸別収集の大きなメリットの一つであることが確認できる。「不便になった」は168人(11.8%)にとどまり、全体として負担軽減効果が高いことが示されている。

Q21: クリーンステーション収集の時に比べ、クリーンステーションの維持管理の負担に変化はありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
減った	381	26.5	26.9
変わらない	834	58.1	59.0
増えた	41	2.9	2.9
どちらともいえない	158	11.0	11.2
無回答	22	1.5	-
合計	1436	100	100

Q21 クリーンステーション収集の時に比べ、クリーンステーションの維持管理の負担に変化はありますか

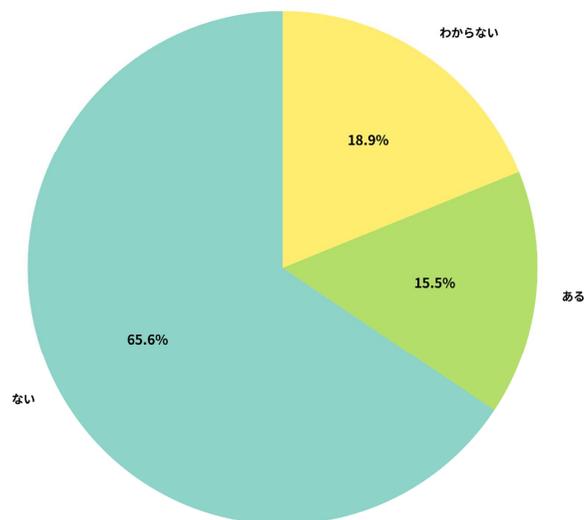


分析: クリーンステーションの維持管理負担では「減った」が381人(26.9%)、「変わらない」が834人(59.0%)となっている。約4分の1の市民が維持管理の負担軽減を実感していることがわかる。

Q22: 令和7年4月以降、戸別収集の取り残しや収集時間の遅れなどはありますか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
ない	924	64.3	65.6
ある	219	15.3	15.5
わからない	267	18.6	18.9
無回答	26	1.8	-
合計	1436	100	100

Q22 令和7年4月以降、戸別収集の取り残しや収集時間の遅れなどはありますか

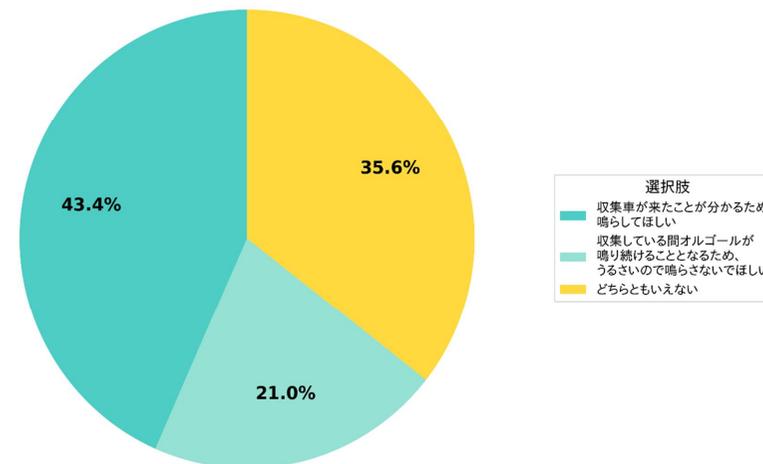


分析: 戸別収集の取り残しや収集時間の遅れでは「ない」が924人（65.6%）と約三分の二を占め、収集サービスの品質が概ね良好であることが確認できる。「ある」は219人（15.5%）で、運用面での改善余地があることも示されている。

Q23: 収集車が来たことをお知らせするオルゴールは必要ですか

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
収集車が来たことが分かるため、鳴らしてほしい	605	42.1	43.4
収集している間オルゴールが鳴り続けることとなるため、うるさいので鳴らさないでほしい	292	20.3	21.0
どちらともいえない	495	34.5	35.6
無回答	44	3.1	-
合計	1436	100	100

Q23 収集車が来たことをお知らせするオルゴールは必要ですか

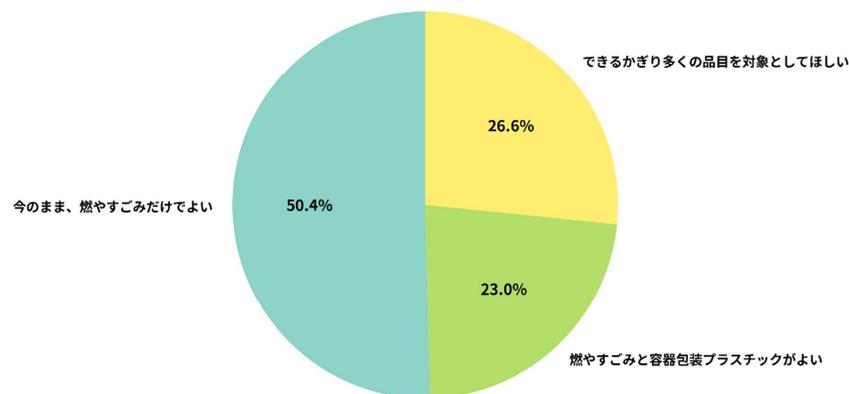


分析: 収集車のオルゴールについては「鳴らしてほしい」が605人（43.4%）と最も多く、「どちらともいえない」が495人（35.6%）、「鳴らさないでほしい」が292人（21.0%）となっている。

Q24: 戸別収集対象品目の拡大について

選択肢	件数	割合(%)	有効回答割合(%)
今のまま、燃やすごみだけでよい	700	48.7	50.4
燃やすごみと容器包装プラスチックがよい	320	22.3	23.0
できるかぎり多くの品目を対象としてほしい	369	25.7	26.6
無回答	47	3.3	-
合計	1436	100	100

Q24 戸別収集対象品目の拡大について



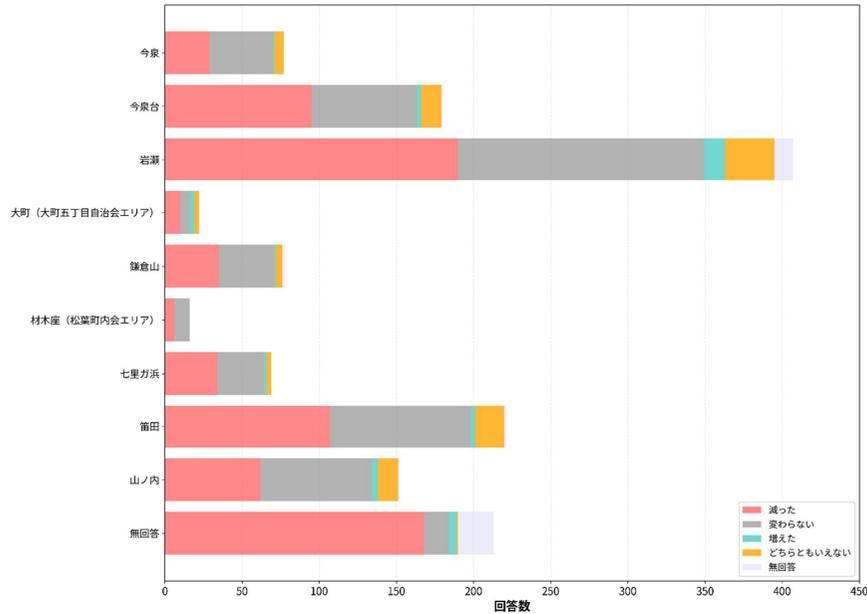
分析: 戸別収集対象品目の拡大については「今のまま、燃やすごみだけでよい」が700人(50.4%)と半数を占める一方、「できるかぎり多くの品目を対象としてほしい」も369人(26.6%)となっている。市民ニーズが分かれており、品目の拡大については、慎重な検討が必要と考えられる。

4. クロス集計による詳細分析

4.1. 地域(Q1) × カラス被害(Q13)

Q1×Q3	減った	変わらない	増えた	どちらとも いえない	無回答	合計
今泉	29件 (37.7%)	41件 (53.2%)	1件 (1.3%)	6件 (7.8%)	0件 (0.0%)	77件 (100%)
今泉台	95件 (52.8%)	68件 (37.8%)	3件 (1.7%)	13件 (7.2%)	1件 (0.5%)	180件 (100%)
岩瀬	190件 (46.7%)	159件 (39.1%)	14件 (3.4%)	32件 (7.9%)	12件 (2.9%)	407件 (100%)
大町(大町五丁目自治会エリア)	10件 (43.5%)	6件 (26.1%)	3件 (13.0%)	3件 (13.0%)	1件 (4.4%)	23件 (100%)
鎌倉山	35件 (44.9%)	36件 (46.2%)	1件 (1.3%)	4件 (5.1%)	2件 (2.5%)	78件 (100%)
材木座(松葉町内会エリア)	6件 (37.5%)	10件 (62.5%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	16件 (100%)
七里ガ浜	34件 (49.3%)	30件 (43.5%)	2件 (2.9%)	3件 (4.3%)	0件 (0.0%)	69件 (100%)
笛田	107件 (48.4%)	91件 (41.2%)	3件 (1.4%)	19件 (8.6%)	1件 (0.4%)	221件 (100%)
山ノ内	62件 (40.8%)	72件 (47.4%)	4件 (2.6%)	13件 (8.5%)	1件 (0.7%)	152件 (100%)
無回答	168件 (78.9%)	16件 (7.5%)	5件 (2.3%)	1件 (0.5%)	23件 (10.8%)	213件 (100%)
合計	736件 (51.3%)	529件 (36.8%)	36件 (2.5%)	94件 (6.5%)	41件 (2.9%)	1436件 (100%)

地域×ガラス被害（積み上げ横棒グラフ）



分析:

詳細分析

戸別収集によるカラス被害軽減効果は全地域で確認されているが、地域による効果の差が顕著である。改善率が高いのは今泉台 52.8% (95/180 人) と七里ガ浜 49.3% (34/69 件) で、これらの地域では従来のクリーンステーション方式でのカラス被害が深刻であったことが推測される。

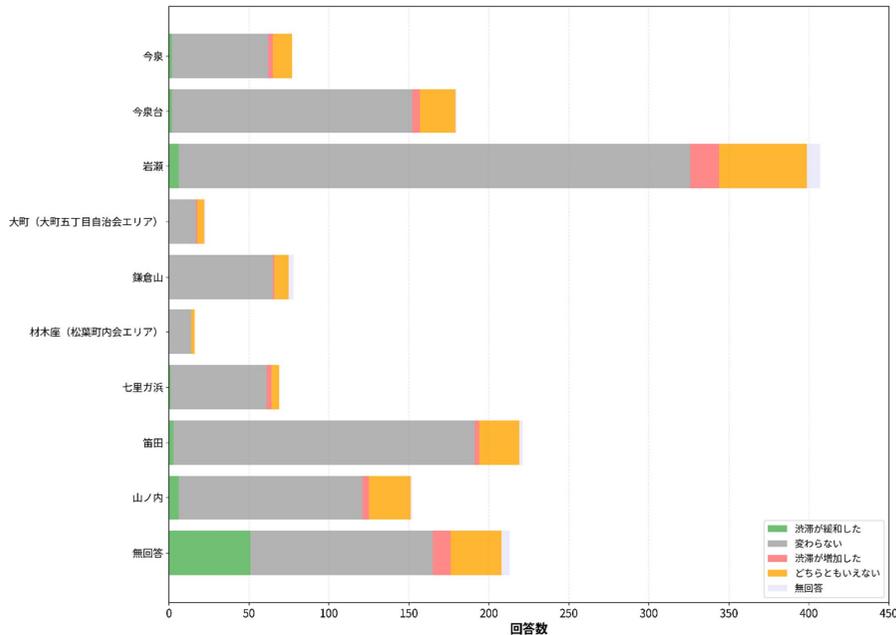
「変わらない」との回答は 36.8% (529/1436 件) となっているが、これは戸別収集の導入以前からカラス被害が少なかった地域や、適切な対策が既に講じられていた地域である可能性が高い。重要なのは「増えた」との回答が全地域で 2.5%

(36/1436 件) と極めて少ないことであり、戸別収集がカラス被害を悪化させるリスクは極めて低いことが確認される。

4.2. 地域 (Q1) ×交通渋滞 (Q19)

Q1×Q19	渋滞が緩和した	変わらない	渋滞が増加した	どちらともいえない	無回答	合計
今泉	2 件 (2.6%)	60 件 (77.9%)	3 件 (3.9%)	12 件 (15.6%)	0 件 (0.0%)	77 件 (100%)
今泉台	2 件 (1.1%)	150 件 (83.3%)	5 件 (2.8%)	22 件 (12.2%)	1 件 (0.6%)	180 件 (100%)
岩瀬	6 件 (1.5%)	320 件 (78.6%)	18 件 (4.4%)	55 件 (13.5%)	8 件 (2.0%)	407 件 (100%)
大町 (大町五丁目自治会エリア)	0 件 (0.0%)	17 件 (74.0%)	1 件 (4.3%)	4 件 (17.4%)	1 件 (4.3%)	23 件 (100%)
鎌倉山	0 件 (0.0%)	65 件 (83.3%)	1 件 (1.3%)	9 件 (11.5%)	3 件 (3.9%)	78 件 (100%)
材木座 (松葉町内会エリア)	0 件 (0.0%)	14 件 (87.5%)	0 件 (0.0%)	2 件 (12.5%)	0 件 (0.0%)	16 件 (100%)
七里ガ浜	1 件 (1.5%)	60 件 (87.0%)	3 件 (4.3%)	5 件 (7.2%)	0 件 (0.0%)	69 件 (100%)
笛田	3 件 (1.4%)	188 件 (85.0%)	3 件 (1.4%)	25 件 (11.3%)	2 件 (0.9%)	221 件 (100%)
山ノ内	6 件 (3.9%)	115 件 (75.7%)	4 件 (2.6%)	26 件 (17.1%)	1 件 (0.7%)	152 件 (100%)
無回答	51 件 (23.9%)	114 件 (53.5%)	11 件 (5.2%)	32 件 (15.0%)	5 件 (2.4%)	213 件 (100%)
合計	71 件 (4.9%)	1103 件 (76.8%)	49 件 (3.4%)	192 件 (13.4%)	21 件 (1.5%)	1436 件 (100%)

地域×渋滞状況（積み上げ棒グラフ）



分析:

詳細分析

交通渋滞への影響は全地域で「変わらない」が76.8%（1103/1436件）と圧倒的多数を占め、戸別収集による道路環境への影響は限定的である。

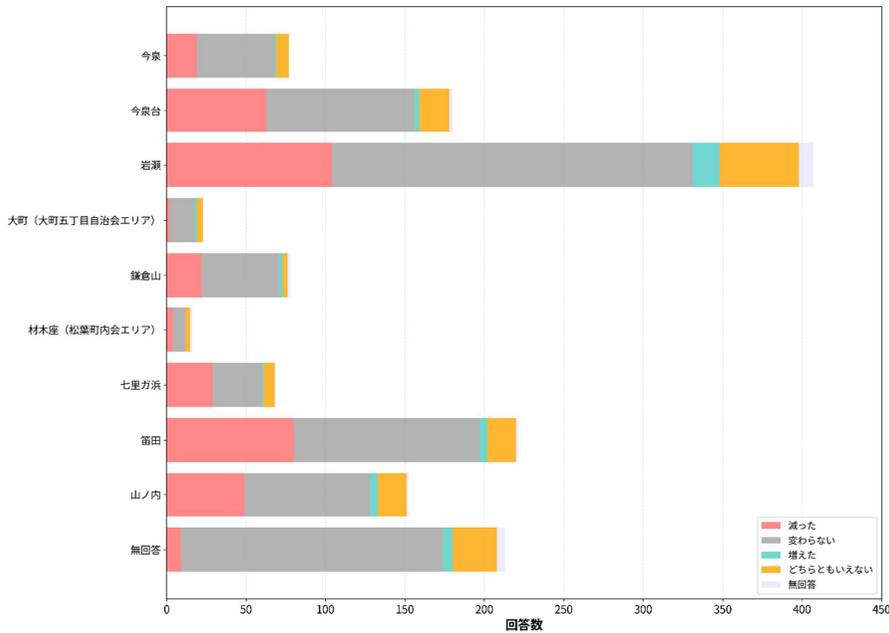
わずかながら「渋滞が緩和した」との回答が4.9%（71/1436件）あることは注目に値する。これはクリーンステーション周辺での混雑が解消されたことによる効果と考えられる。特に山ノ内3.9%（6/152件）と岩瀬1.5%（6/407件）で緩和効果が見られる。

「渋滞が増加した」との回答は3.4%（49/1436件）にとどまっており、収集車の増加による交通への悪影響は最小限に留まっていると考えられる。

4.3. 地域（Q1）×CS維持管理負担（Q21）

Q1×Q21	減った	変わらない	増えた	どちらともいえない	無回答	合計
今泉	19件 (24.7%)	49件 (63.6%)	1件 (1.3%)	8件 (10.4%)	0件 (0.0%)	77件 (100%)
今泉台	63件 (35.0%)	93件 (51.7%)	3件 (1.7%)	19件 (10.5%)	2件 (1.1%)	180件 (100%)
岩瀬	104件 (25.5%)	227件 (55.8%)	17件 (4.2%)	50件 (12.3%)	9件 (2.2%)	407件 (100%)
大町 (大町五丁目自治会エリア)	2件 (8.7%)	16件 (69.6%)	1件 (4.3%)	4件 (17.4%)	0件 (0.0%)	23件 (100%)
鎌倉山	22件 (28.2%)	49件 (62.8%)	2件 (2.6%)	3件 (3.8%)	2件 (2.6%)	78件 (100%)
材木座 (松葉町内会エリア)	4件 (25.0%)	8件 (50.0%)	0件 (0.0%)	3件 (18.8%)	1件 (6.2%)	16件 (100%)
七里ガ浜	29件 (42.1%)	31件 (45.0%)	1件 (1.4%)	7件 (10.1%)	1件 (1.4%)	69件 (100%)
笛田	80件 (36.2%)	117件 (52.9%)	5件 (2.3%)	18件 (8.1%)	1件 (0.5%)	221件 (100%)
山ノ内	49件 (32.2%)	79件 (52.0%)	5件 (3.3%)	18件 (11.8%)	1件 (0.7%)	152件 (100%)
無回答	9件 (4.2%)	165件 (77.5%)	6件 (2.8%)	28件 (13.1%)	5件 (2.4%)	213件 (100%)
合計	381件 (26.5%)	834件 (58.1%)	41件 (2.9%)	158件 (11.0%)	22件 (1.5%)	1436件 (100%)

地域×CS維持管理負担（積み上げ棒グラフ）



分析:

詳細分析

クリーンステーション維持管理負担の軽減効果は地域により大きな差がある。七里ガ浜 42.1% (29/69 件) で最も高い軽減効果が見られるのは、従来の維持管理体制が住民に大きな負担となっていたことを示している。

笛田 36.2% (80/221 件)、今泉台 35.0% (63/180 件) でも高い軽減効果が確認されており、これらの地域ではクリーンステーションの維持管理の負担が大きかったものと考えられる。一方、材木座 25.0% (4/16 件) では効果が限定的であるが、これは戸別収集導入以前から維持管理負担が軽微であったことが考えられる。

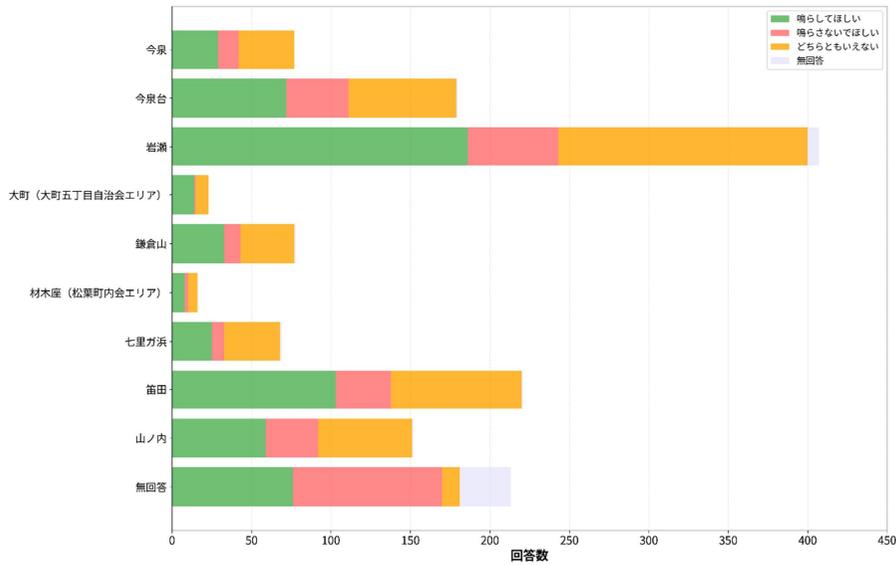
全体として 26.5% (381/1436 件) の市民が負担軽減を実感している一方、58.1% (834/1436 件) が「変わらない」と回答している。これは戸別収集後もクリーン

ステーションが他の品目で継続使用されているためであり、完全な負担解消には至っていないことを示している。

4.4. 地域 (Q1) ×オルゴール (Q23)

Q1×Q23	収集車が来たことが分かるため、鳴らしてほしい	収集している間オルゴールが鳴り続けることとなるため、うるさいので鳴らさないでほしい	どちらともいえない	無回答	合計
今泉	29 件 (37.6%)	13 件 (16.9%)	35 件 (45.5%)	0 件 (0.0%)	77 件 (100%)
今泉台	72 件 (40.0%)	39 件 (21.7%)	68 件 (37.8%)	1 件 (0.5%)	180 件 (100%)
岩瀬	186 件 (45.7%)	57 件 (14.0%)	157 件 (38.6%)	7 件 (1.7%)	407 件 (100%)
大町 (大町五丁目自治会エリア)	14 件 (60.9%)	1 件 (4.3%)	8 件 (34.8%)	0 件 (0.0%)	23 件 (100%)
鎌倉山	33 件 (42.3%)	10 件 (12.8%)	34 件 (43.6%)	1 件 (1.3%)	78 件 (100%)
材木座 (松葉町内会エリア)	8 件 (50.0%)	2 件 (12.5%)	6 件 (37.5%)	0 件 (0.0%)	16 件 (100%)
七里ガ浜	25 件 (36.2%)	8 件 (11.6%)	35 件 (50.7%)	1 件 (1.5%)	69 件 (100%)
笛田	103 件 (46.6%)	35 件 (15.8%)	82 件 (37.1%)	1 件 (0.5%)	221 件 (100%)
山ノ内	59 件 (38.8%)	33 件 (21.7%)	59 件 (38.8%)	1 件 (0.7%)	152 件 (100%)
無回答	76 件 (35.7%)	94 件 (44.1%)	11 件 (5.2%)	32 件 (15.0%)	213 件 (100%)
合計	605 件 (42.1%)	292 件 (20.3%)	495 件 (34.5%)	44 件 (3.1%)	1436 件 (100%)

地域×オルゴール（積み上げ横棒グラフ）



分析:

詳細分析

収集車のオルゴールに対する意見は地域により大きく分かれており、これは地域の特性や住環境の違いを反映している。大町では60.9%（14/23件）が「鳴らしてほしい」と回答し、最も高い支持率を示している。

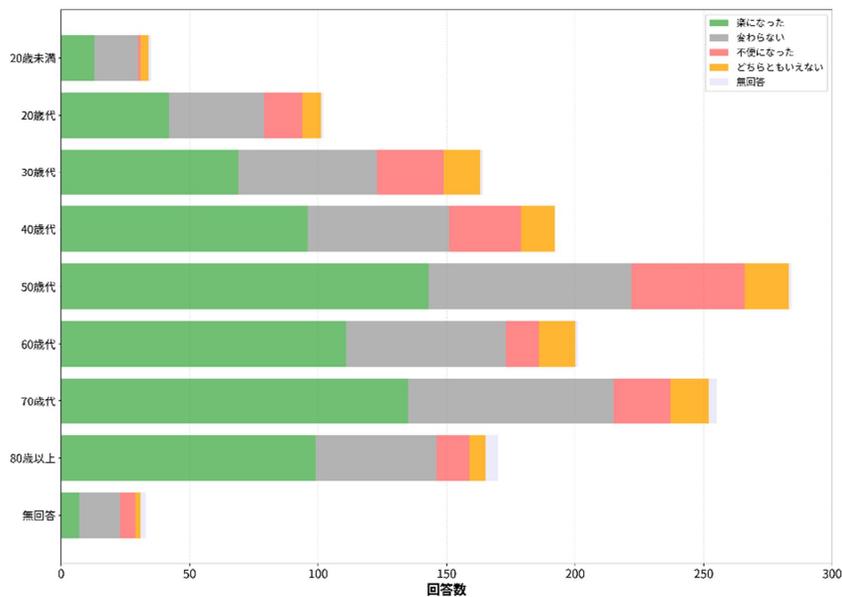
一方、今泉45.5%（35/77件）や七里が浜50.7%（35/69件）では「どちらともいえない」が最も多く、住民の意見が分かれており、一律の対応では満足度を高めることが困難であることを示している。

岩瀬地区では45.7%（186/407件）が「鳴らしてほしい」、38.6%（157/407件）が「どちらともいえない」と回答しており、地域によって意見が分かれている。これは同一地域内でも住環境や生活スタイルが多様であることを表している。

4.5. 年齢（Q3）×ごみ出し負担（Q20）

Q3×Q20	楽になった	変わらない	不便になった	どちらともいえない	無回答	合計
20歳未満	13件 (37.1%)	17件 (48.5%)	1件 (2.9%)	3件 (8.6%)	1件 (2.9%)	35件 (100%)
20歳代	42件 (41.2%)	37件 (36.3%)	15件 (14.7%)	7件 (6.8%)	1件 (1.0%)	102件 (100%)
30歳代	69件 (42.1%)	54件 (32.9%)	26件 (15.9%)	14件 (8.5%)	1件 (0.6%)	164件 (100%)
40歳代	96件 (50.0%)	55件 (28.6%)	28件 (14.6%)	13件 (6.8%)	0件 (0.0%)	192件 (100%)
50歳代	143件 (50.4%)	79件 (27.8%)	44件 (15.5%)	17件 (6.0%)	1件 (0.3%)	284件 (100%)
60歳代	111件 (55.2%)	62件 (30.8%)	13件 (6.5%)	14件 (7.0%)	1件 (0.5%)	201件 (100%)
70歳代	135件 (52.9%)	80件 (31.4%)	22件 (8.6%)	15件 (5.9%)	3件 (1.2%)	255件 (100%)
80歳以上	99件 (58.2%)	47件 (27.7%)	13件 (7.7%)	6件 (3.5%)	5件 (2.9%)	170件 (100%)
無回答	7件 (21.2%)	16件 (48.5%)	6件 (18.1%)	2件 (6.1%)	2件 (6.1%)	33件 (100%)
合計	715件 (49.8%)	447件 (31.1%)	168件 (11.7%)	91件 (6.3%)	15件 (1.1%)	1436件 (100%)

年齢×ごみ出し負担（積み上げ横棒グラフ）



分析:

詳細分析

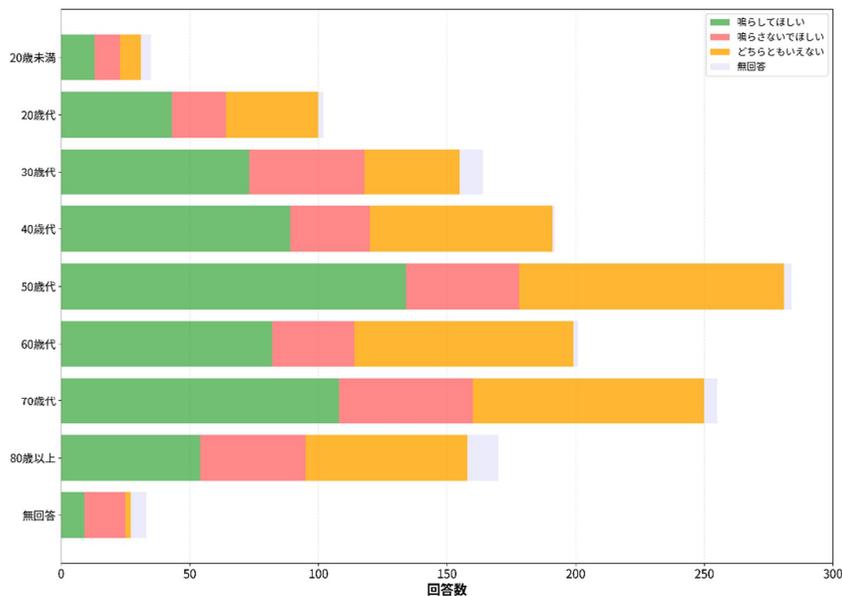
年齢による戸別収集の効果には明確な傾向が見られ、高齢になるほど負担軽減効果が高くなっている。80歳以上58.2%（99/170件）、70歳代52.9%（135/255件）で「楽になった」の割合が高いのは、身体的な負担軽減が実感されているものと考えられる。

40歳代50.0%（96/192件）、50歳代50.4%（143/284件）では負担軽減を実感する割合が半数を超えており、子育て世代や働き盛り世代にとっても戸別収集は有効な施策であることが確認できる。

4.6. 年齢（Q3）×オルゴール（Q23）

Q3×Q23	収集車が来たことが分かるため、鳴らしてほしい	収集している間オルゴールが鳴り続けることとなるため、うるさいので鳴らさないでほしい	どちらともいえない	無回答	合計
20歳未満	13件 (37.1%)	10件 (28.6%)	8件 (22.9%)	4件 (11.4%)	35件 (100%)
20歳代	43件 (42.1%)	21件 (20.6%)	36件 (35.3%)	2件 (2.0%)	102件 (100%)
30歳代	73件 (44.5%)	45件 (27.4%)	37件 (22.6%)	9件 (5.5%)	164件 (100%)
40歳代	89件 (46.4%)	31件 (16.1%)	71件 (37.0%)	1件 (0.5%)	192件 (100%)
50歳代	134件 (47.2%)	44件 (15.5%)	103件 (36.3%)	3件 (1.0%)	284件 (100%)
60歳代	82件 (40.8%)	32件 (15.9%)	85件 (42.3%)	2件 (1.0%)	201件 (100%)
70歳代	108件 (42.3%)	52件 (20.4%)	90件 (35.3%)	5件 (2.0%)	255件 (100%)
80歳以上	54件 (31.8%)	41件 (24.1%)	63件 (37.1%)	12件 (7.0%)	170件 (100%)
無回答	9件 (27.3%)	16件 (48.5%)	2件 (6.0%)	6件 (18.2%)	33件 (100%)
合計	605件 (42.1%)	292件 (20.3%)	495件 (34.5%)	44件 (3.1%)	1436件 (100%)

年齢×オルゴール (積み上げ横棒グラフ)



分析:

詳細分析

年齢層によるオルゴールへの意見は興味深いパターンを示している。50歳代 47.2% (134/284件) と 40歳代 46.4% (89/192件) で「鳴らしてほしい」の割合が最も高い。

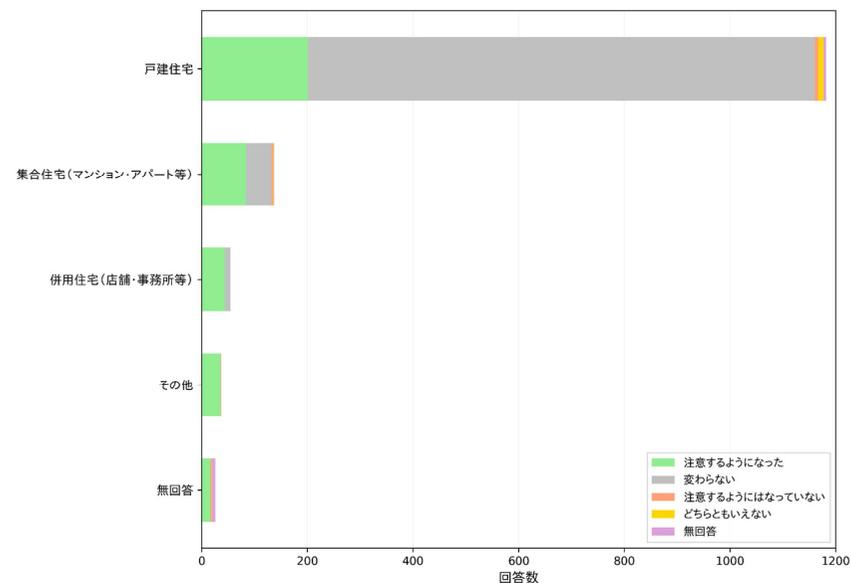
80歳以上では「どちらともいえない」37.1% (63/170件) が最も多く、「鳴らしてほしい」31.8% (54/170件) を上回っている。高齢者層では、静寂を好む傾向がある可能性がある。

20歳代では42.1% (43/102件) が「鳴らしてほしい」と回答している一方、30歳代では27.4% (45/164件) が「鳴らさないでほしい」と回答しており、若年層でも意見が分かれている。これは生活リズムや在宅時間の違いが影響していると考えられる。

4.7. 住居形態 (Q7) ×ごみの出し方注意 (Q9)

Q7×Q9	注意するようになった	変わらない	注意するようにはなっていない	どちらともいえない	無回答	合計
戸建住宅	201件 (17.0%)	960件 (81.2%)	6件 (0.5%)	10件 (0.9%)	5件 (0.4%)	1182件 (100%)
集合住宅 (マンション・アパート等)	84件 (61.3%)	48件 (35.1%)	3件 (2.2%)	1件 (0.7%)	1件 (0.7%)	137件 (100%)
併用住宅 (店舗・事務所等)	44件 (81.5%)	10件 (18.5%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	54件 (100%)
その他	36件 (97.3%)	0件 (0.0%)	1件 (2.7%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	37件 (100%)
無回答	16件 (61.6%)	1件 (3.8%)	2件 (7.7%)	1件 (3.8%)	6件 (23.1%)	26件 (100%)
合計	381件 (26.6%)	1019件 (71.0%)	12件 (0.8%)	12件 (0.8%)	12件 (0.8%)	1436件 (100%)

住居形態×ごみの出し方注意 (積み上げ横棒グラフ)



分析:

詳細分析

住居形態による分別意識の変化には顕著な差が見られる。集合住宅居住者の61.3% (84/137件)が「注意するようになった」と回答したのに対し、戸建住宅居住者では17.0% (201/1182件)にとどまっている。

この差は、戸建て住宅では従来から分別に対する意識が高かったことを示しており、集合住宅では、制度変更を機に意識向上が図られたことが理由と考えられる。

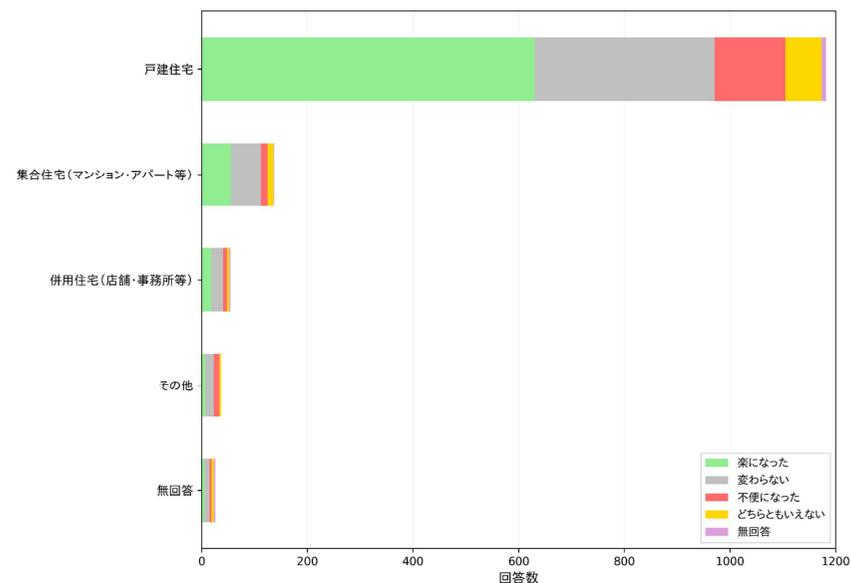
併用住宅では81.5% (44/54件)が「注意するようになった」と極めて高い割合を示している。これは事業系ごみとの分別が必要であり、より厳格な分別管理が求められることが影響しているものと考えられる。

戸建住宅居住者の多くが「変わらない」81.2% (960/1182件)と回答しているのは、従来から分別意識が働いていたことを示しており、戸別収集は既存の良好な分別習慣を維持・継続させる効果があることが確認される。

4.8. 住居形態 (Q7) × ごみ出し負担 (Q20)

Q7×Q20	楽になった	変わらない	不便になった	どちらとも いえない	無回答	合計
戸建住宅	630件 (53.3%)	341件 (28.8%)	134件 (11.3%)	68件 (5.8%)	9件 (0.8%)	1182件 (100%)
集合住宅 (マンション・アパート等)	55件 (40.2%)	57件 (41.6%)	13件 (9.5%)	11件 (8.0%)	1件 (0.7%)	137件 (100%)
併用住宅 (店舗・事務所等)	18件 (33.3%)	23件 (42.6%)	7件 (13.0%)	4件 (7.4%)	2件 (3.7%)	54件 (100%)
その他	7件 (18.9%)	16件 (43.3%)	10件 (27.0%)	4件 (10.8%)	0件 (0.0%)	37件 (100%)
無回答	5件 (19.2%)	10件 (38.5%)	4件 (15.4%)	4件 (15.4%)	3件 (11.5%)	26件 (100%)
合計	715件 (49.8%)	447件 (31.1%)	168件 (11.7%)	91件 (6.3%)	15件 (1.1%)	1436件 (100%)

住居形態×ごみ出し負担 (積み上げ横棒グラフ)



分析:

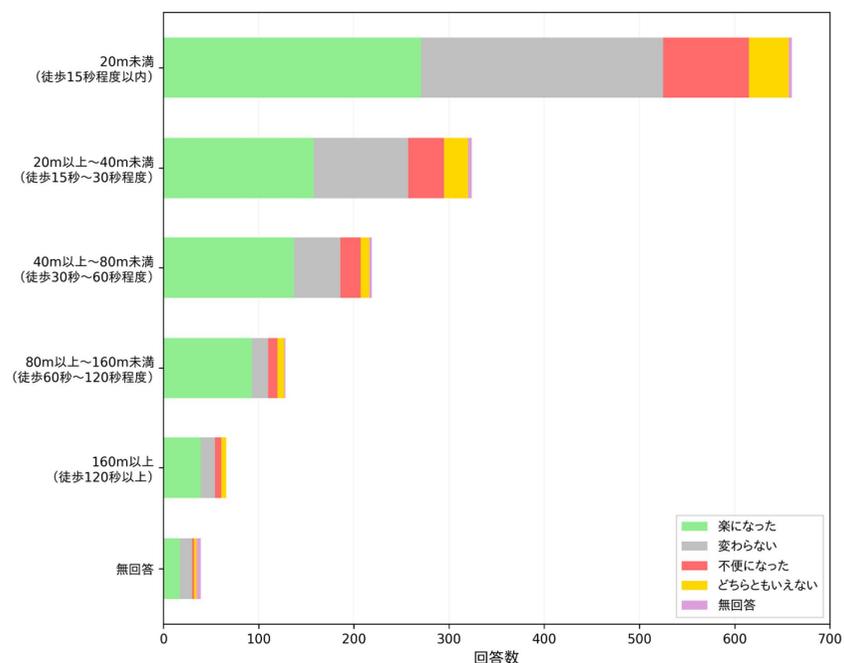
詳細分析

集合住宅居住者では40.2% (55/137件) が「楽になった」と回答している一方、41.6% (57/137件) が「変わらない」と回答しており、効果が限定的である。これは集合住宅ではクリーンステーションと敷地内の戸別収集品目専用排出場所と排出場所が2か所に分かれていることが影響していると考えられる。

4.9. CS 距離 (Q8) × ごみ出し負担 (Q20)

Q8×Q20	楽になった	変わらない	不便になった	どちらとも いえない	無回答	合計
20m 未満 (徒歩 15 秒程度以内)	271 件 (41.1%)	254 件 (38.5%)	90 件 (13.6%)	42 件 (6.4%)	3 件 (0.4%)	660 件 (100%)
20m 以上～40m 未満 (徒歩 15 秒 ～30 秒程度)	158 件 (48.8%)	99 件 (30.6%)	38 件 (11.7%)	25 件 (7.7%)	4 件 (1.2%)	324 件 (100%)
40m 以上～80m 未満 (徒歩 30 秒 ～60 秒程度)	137 件 (62.5%)	49 件 (22.4%)	21 件 (9.6%)	9 件 (4.1%)	3 件 (1.4%)	219 件 (100%)
80m 以上～160m 未満 (徒歩 60 秒 ～120 秒程度)	93 件 (72.6%)	17 件 (13.3%)	10 件 (7.8%)	7 件 (5.5%)	1 件 (0.8%)	128 件 (100%)
160m 以上 (徒歩 120 秒以上)	39 件 (59.1%)	15 件 (22.7%)	7 件 (10.6%)	5 件 (7.6%)	0 件 (0.0%)	66 件 (100%)
無回答	17 件 (43.6%)	13 件 (33.3%)	2 件 (5.1%)	3 件 (7.7%)	4 件 (10.3%)	39 件 (100%)
合計	715 件 (49.8%)	447 件 (31.1%)	168 件 (11.7%)	91 件 (6.3%)	15 件 (1.1%)	1436 件 (100%)

CS 距離×ごみ出し負担 (積み上げ横棒グラフ)



分析:

詳細分析

クリーンステーションまでの距離と負担軽減効果には相関関係が見られ、距離が遠いほど戸別収集の効果が高くなっている。160m 以上の世帯では59.1% (39/66件)、80m 以上160m 未満では72.6% (93/128件) が「楽になった」と回答しており、遠距離世帯での改善効果が確認される。

興味深いのは、20m 未満の近距離世帯でも41.1% (271/660件) が改善を実感していることである。これは距離だけでなく、天候や時間の制約、重いごみ袋の運搬負担など、多様な要因が負担軽減に寄与していることを示している。

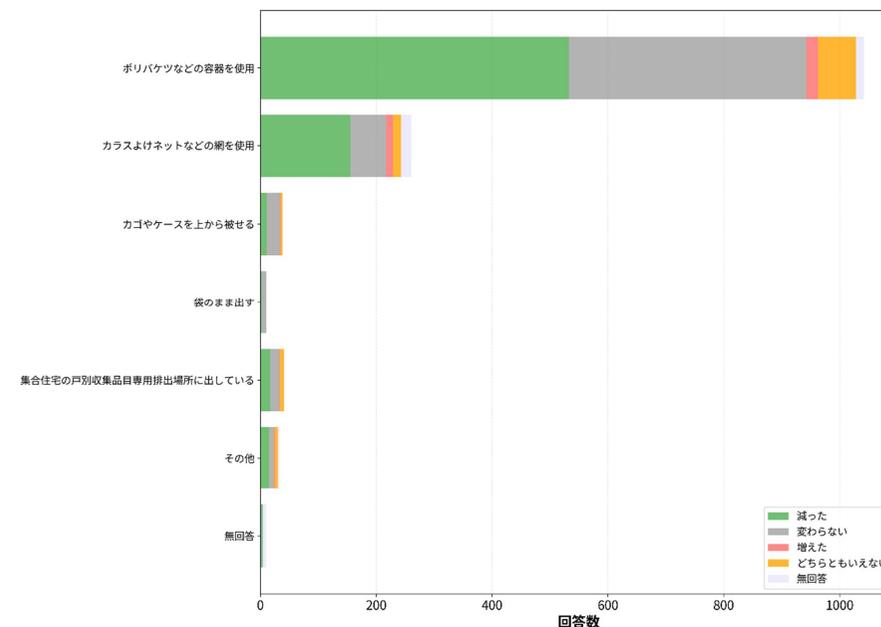
40m 以上80m 未満の世帯では62.5% (137/219件) が改善を実感しており、中距離世帯でも高い効果が得られている。これは戸別収集が単なる距離の問題を解決するだけでなく、ごみ出し行為全体の利便性を向上させていることを表している。

一方、近距離世帯では「不便になった」の割合が13.6%（90/660件）と相対的に高く、容器の準備や管理が新たな負担となっている可能性がある。

4.10. 排出方法（Q11）×カラス等の被害（Q13）

Q11×Q13	減った	変わらない	増えた	どちらとも いえない	無回答	合計
ポリバケツなどの容器を使用	533件 (51.2%)	410件 (39.4%)	20件 (1.9%)	65件 (6.2%)	14件 (1.3%)	1042件 (100%)
カラスよけネットなどの網を使用	155件 (59.4%)	62件 (23.7%)	12件 (4.6%)	14件 (5.4%)	18件 (6.9%)	261件 (100%)
カゴやケースを上から被せる	11件 (29.0%)	23件 (60.5%)	1件 (2.6%)	3件 (7.9%)	0件 (0.0%)	38件 (100%)
袋のまま出す	2件 (20.0%)	8件 (80.0%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	10件 (100%)
集合住宅の戸別収集品目専用排出場所に出している	17件 (40.5%)	16件 (38.1%)	1件 (2.4%)	7件 (16.6%)	1件 (2.4%)	42件 (100%)
その他	15件 (45.5%)	8件 (24.2%)	2件 (6.1%)	5件 (15.1%)	3件 (9.1%)	33件 (100%)
無回答	3件 (30.0%)	2件 (20.0%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	5件 (50.0%)	10件 (100%)
合計	736件 (51.3%)	529件 (36.8%)	36件 (2.5%)	94件 (6.5%)	41件 (2.9%)	1436件 (100%)

排出方法×カラス被害（積み上げ横棒グラフ）



分析:

詳細分析

排出方法によるカラス等被害軽減効果には大きな差があり、適切な排出方法の重要性が示されている。ポリバケツ使用者の51.2%（533/1042件）がカラス等被害の減少を実感しており、高い効果が確認される。

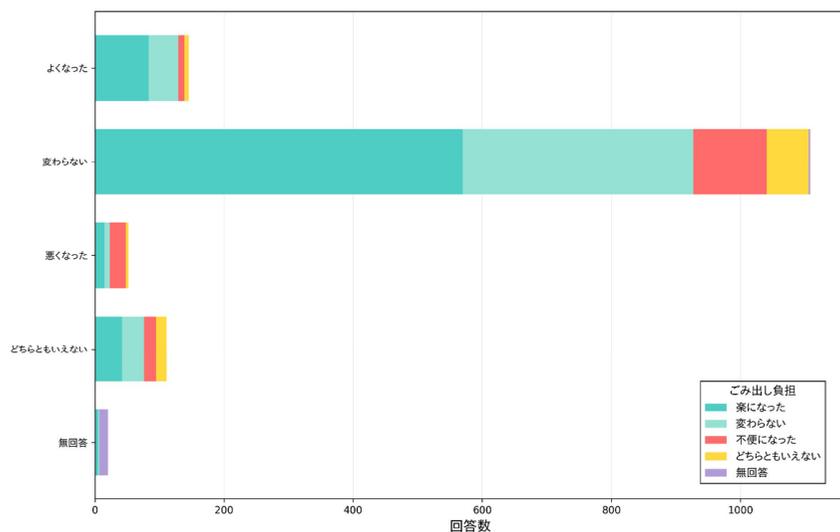
カラスよけネット使用者でも59.4%（155/261件）が改善を感じている。

注目すべきは、カゴやケース使用者では29.0%（11/38件）しか改善を実感していないことである。これはカゴやケースでは完全な密閉ができず、カラス等対策としての効果が限定的であることを示唆している可能性がある。

4.11. コミュニケーション (Q15) × ゴミ出し負担 (Q20)

Q15×Q20	楽になった	変わらない	不便になった	どちらともいえない	無回答	合計
よくなった	83件 (57.3%)	46件 (31.7%)	10件 (6.9%)	6件 (4.1%)	0件 (0.0%)	145件 (100%)
変わらない	570件 (51.4%)	357件 (32.2%)	114件 (10.3%)	65件 (5.9%)	2件 (0.2%)	1108件 (100%)
悪くなった	15件 (28.8%)	8件 (15.4%)	25件 (48.1%)	4件 (7.7%)	0件 (0.0%)	52件 (100%)
どちらともいえない	42件 (37.9%)	34件 (30.6%)	19件 (17.1%)	16件 (14.4%)	0件 (0.0%)	111件 (100%)
無回答	5件 (25.0%)	2件 (10.0%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	13件 (65.0%)	20件 (100%)
合計	715件 (49.8%)	447件 (31.1%)	168件 (11.7%)	91件 (6.3%)	15件 (1.1%)	1436件 (100%)

コミュニケーション×ゴミ出し負担 (積み上げ横棒グラフ)



分析:

詳細分析

地域コミュニケーションとゴミ出し負担軽減には相関関係が見られ、良好な地域関係が負担を軽減していることが確認される。コミュニケーションが「よくなった」と回答した人の57.3% (83/145件) が「楽になった」と感じている。

興味深いのは、コミュニケーションが「悪くなった」と回答した人でも28.8% (15/52件) が「楽になった」と感じていることである。

「変わらない」と回答した大多数77.1% (1108/1436件) の中でも、51.4% (570/1108件) が負担軽減を実感しており、戸別収集の基本的な効果が地域コミュニケーションとは関係なく発揮されていることが確認される。

4.13. コミュニケーション (Q15) ×CS 維持管理負担 (Q21)

Q15×Q21	減った	変わらない	増えた	どちらともいえない	無回答	合計
よくなった	38件 (26.2%)	91件 (62.7%)	2件 (1.4%)	12件 (8.3%)	2件 (1.4%)	145件 (100%)
変わらない	302件 (27.2%)	671件 (60.6%)	24件 (2.2%)	106件 (9.6%)	5件 (0.4%)	1108件 (100%)
悪くなった	14件 (26.9%)	22件 (42.3%)	9件 (17.3%)	7件 (13.5%)	0件 (0.0%)	52件 (100%)
どちらともいえない	24件 (21.6%)	48件 (43.3%)	6件 (5.4%)	32件 (28.8%)	1件 (0.9%)	111件 (100%)
無回答	3件 (15.0%)	2件 (10.0%)	0件 (0.0%)	1件 (5.0%)	14件 (70.0%)	20件 (100%)
合計	381件 (26.5%)	834件 (58.1%)	41件 (2.9%)	158件 (11.0%)	22件 (1.5%)	1436件 (100%)

分析:

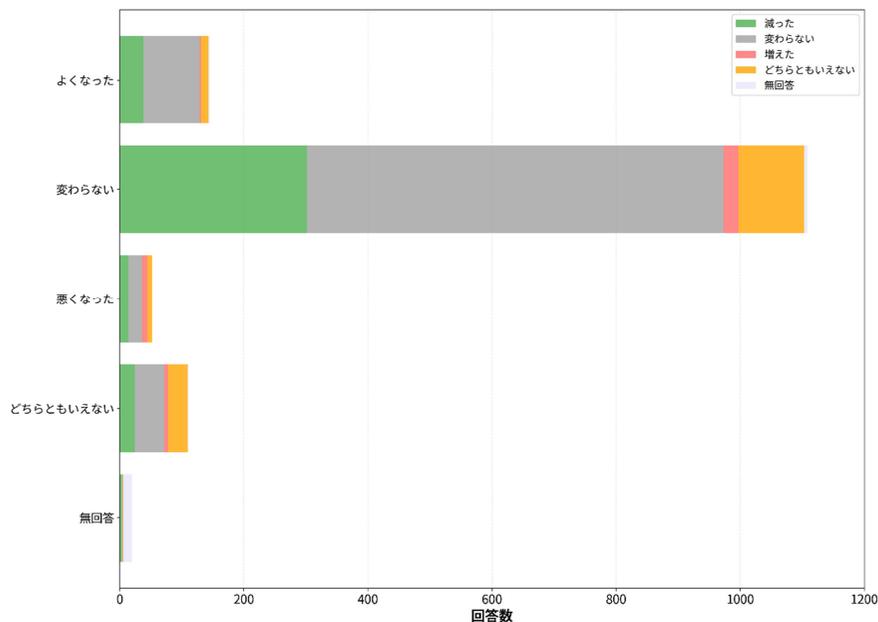
詳細分析

地域コミュニケーションとクリーンステーション維持管理負担の関係は、地域の協力体制の重要性を明確に示している。コミュニケーションが「よくなった」人の26.2% (38/145件) が維持管理負担の軽減を実感している。

また、コミュニケーションが「悪くなった」人の17.3% (9/52件) が維持管理負担の「増加」を感じている。

「どちらともいえない」と回答した人では、21.6% (24/111件) が負担軽減を感じている一方、28.8% (32/111件) が「どちらともいえない」と回答しており、地域の関わりが曖昧な状況では維持管理負担への影響も不明確になることが示されている。

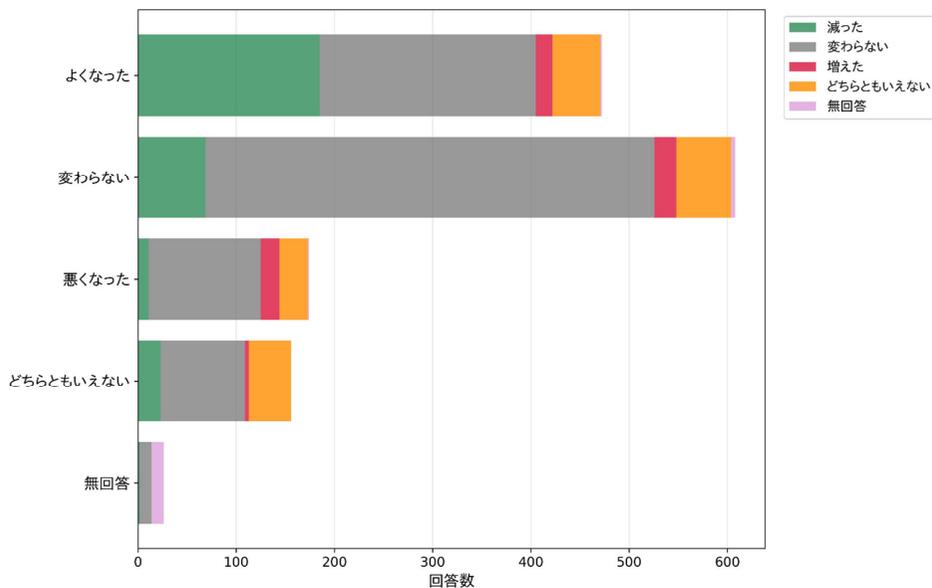
コミュニケーション×CS維持管理負担 (積み上げ横棒グラフ)



4.14. 景観（Q14）×不法投棄（Q17）

Q14×Q17	減った	変わらない	増えた	どちらともいえない	無回答	合計
よくなった	185件 (39.2%)	220件 (46.6%)	17件 (3.6%)	49件 (10.4%)	1件 (0.2%)	472件 (100%)
変わらない	69件 (11.3%)	457件 (75.2%)	22件 (3.6%)	56件 (9.2%)	4件 (0.7%)	608件 (100%)
悪くなった	11件 (6.3%)	114件 (65.5%)	19件 (10.9%)	29件 (16.7%)	1件 (0.6%)	174件 (100%)
どちらともいえない	23件 (14.7%)	86件 (55.1%)	4件 (2.6%)	43件 (27.6%)	0件 (0.0%)	156件 (100%)
無回答	2件 (7.6%)	12件 (46.2%)	0件 (0.0%)	0件 (0.0%)	12件 (46.2%)	26件 (100%)
合計	290件 (20.2%)	889件 (61.9%)	62件 (4.3%)	177件 (12.3%)	18件 (1.3%)	1436件 (100%)

景観×不法投棄（積み上げ横棒グラフ）



分析:

詳細分析

景観改善と不法投棄減少には相関関係が見られ、戸別収集による総合的な環境改善効果が確認される。景観が「よくなった」と回答した人の39.2%（185/472件）が不法投棄の減少も実感しており、視覚的な環境改善が住民の環境意識向上にも寄与している。

景観が「悪くなった」と回答した人でも6.3%（11/174件）が不法投棄の減少を感じている。

景観が「変わらない」と回答した42.3%（608/1436）の中でも、11.3%（69/608件）が不法投棄の減少を実感している。

一方、景観が「悪くなった」人の10.9%（19/174件）が不法投棄の「増加」を感じており、不法投棄による景観の悪化を感じている。

5. 自由記述意見の分析

アンケートのQ25（戸別収集の良い点）とQ26（戸別収集の悪い点・課題）で得られた2,225件の自由記述回答について分析を行った。

本レポートは、鎌倉市戸別収集アンケートの自由記述回答（Q25・Q26）について、2,225件の回答を詳細に分析した結果をまとめたものである。戸別収集制度の導入により、市民の利便性向上とカラス被害の大幅な改善が実現された一方で、排出容器の改善や運用面での課題も明確になった。

主要な内容

- **高い満足度:** 利便性向上（343件）とカラス対策（241件）で大きな成果
- **明確な課題:** 容器・設備の問題（243件）が改善点
- **市民の配慮:** 収集員への負担を心配する声（208件）が多数
- **具体的な改善要望:** プライバシー配慮

1. Q25: 戸別収集の良い点 - 詳細分析

1.1 評価項目の全体像

利便性・手間軽減 (343 件、15.4%)

- ・ 「収集場所までの距離が短くなった。カラスに荒らされることが減った。」
- ・ 「クリーンステーションへ運ぶ手間が減った。カラスが減った。」
- ・ 「仕事をしているのでステーション収集だと日中の管理ができないので（カラスに荒らされたときなど）、戸別収集だと個人管理なので気が楽になった。」
- ・ 「ゴミ出しが楽になったし、敷地内に置いておけることによる安心感がある。ゴミステーションに置くと誰かに漁られても気づけないので。」
- ・ 「カラスの被害の不安がなくなった。しっかりした収集容器を使うと、前日にも出せるので便利。全般的に良いと思います。」
- ・ 「我が家の対象のゴミステーションは、50m 程坂を登った所にあり、燃やすゴミは量が多くて重たい事が多くて、持っていくのが大変でした。戸別収集になって、持っていく負担が激減しました。」
- ・ 他 337 件の類似意見

カラス・動物対策 (241 件、10.8%)

- ・ 「クリーンステーションまでゴミを運ばなくて済む。クリーンステーションの組み立ての負担が減る。カラスの被害がなくなる。」
- ・ 「クリーンステーションではごみ出しルールを守らない方がおり、カラスの被害などが続いていたが、燃えるゴミについては被害がなくなり助かっている。」
- ・ 「戸別収集前は、ネットがかかっていたとしても隙間からカラスにつつかれ、ゴミが散乱し、自宅前や自宅駐車場、周辺住宅前、周辺道路に風で飛ばされたゴミを何度も片付けたことがあった。それがなくなったのでとても助かる。」

- ・ 他 238 件の類似意見

時間の自由度 (94 件、4.2%)

- ・ 「収集場所が玄関前なので出しやすくなった。」
- ・ 「収集時刻がお昼頃なので、早朝に慌てて出す必要がなくなった。」
- ・ 「ゴミを出す時間の削減。」
- ・ 「クリーンステーションまで行かなくてよくなった。（時間や手間がかからなくなった）」
- ・ 「時間気にせず、簡易的に捨てられる。」
- ・ 「クリーンステーションに出していた時は、ゴミ出しの時間が仕事の関係で朝早く、当番では無い時も組み立てなければならない時が多く負担だった。戸別回収になってその負担が減った。」
- ・ 他 88 件の類似意見

衛生・清潔 (50 件、2.2%)

- ・ 「カラスによるゴミ被害がなくなり、家の周りが綺麗になった」
- ・ 「クリーンステーションが綺麗な状態になる。年配の両親の負担が減って助かる。」
- ・ 「朝の出勤とともに出せるのでありがたい。カラスの影響が減って道路が綺麗。」
- ・ 「クリーンステーションがカラスに荒らされなくなって、清潔感を保てているので良いと思っています。」
- ・ 「クリーンステーションが汚れなくて良い。」
- ・ 他 45 件の類似意見

景観・美観 (42 件、1.9%)

- ・ 「ゴミステーション時は、ゴミが沢山になると景観的にもあまり宜しくなかったが、戸別収集であればゴミステーション周りがスッキリしている」
- ・ 他 41 件の類似意見

高齢者・体力（43件、1.9%）

- ・ 「うちはクリーンステーションに近いので、あまり変化は感じませんが、少し離れている高齢者の家庭は、毎回大変そうだったので、戸別収集になって負担が減って良かったと思います。」
- ・ 「クリーンステーションまで重いゴミを持って行かなくていいのは大変助かります。」
- ・ 「近所に住む高齢の親のゴミ出しが楽になり助かっている。容器プラも対象にして欲しい。」
- ・ 「重いゴミ出しが楽になった。」
- ・ 他 39 件の類似意見

雨・天候（65件、2.9%）

- ・ 「雨の日のゴミ出しが楽になった。前日からゴミ出しする人がいなくなった。」
- ・ 「雨の日等、ゴミステーションまで行く手間が省けた。収集日以外でも普段以上にゴミが出た場合自分のゴミバケツ(収集用)に入れておける。」
- ・ 「旅行などゴミの日不在の際、早めに家の前に燃えるゴミを出せるのが便利。雨天時、傘不要で出せるのが便利。」
- ・ 「道路を歩かずに済む。（人目、雨天時など気にならない）」
- ・ 他 61 件の類似意見

収集効率（219件、9.8%）

- ・ 「収集してくださっている方の負担は大きいかと思いますが、ゴミを出しやすくなりました。いつもありがとうございます。」
- ・ 他 218 件の類似意見

2. Q26: 戸別収集の悪い点・課題 - 詳細分析

2.1 課題項目の全体像

容器・設備（243件、10.9%）

- ・ 「割と大きな子どものオムツのゴミが分かってしまうので、目隠しできる容器を用意したいが、敷地内にあまり大きなサイズを置くことができないため、悩んでいる。（今は折りたたみできるネットを使用）」
- ・ 「時々、ゴミの量が多い時、ポリバケツに入らなくて困るときがあります。」
- ・ 「容器を自宅に置いておかないといけないので、場所が必要になった。」
- ・ 「カラスネットの購入代金が掛かったくらいか。だが些細な金額なので気にしていない。」
- ・ 「家の前にカラスが寄ってくるのが気になる。ポリバケツを出しっぱなしにしておくとも雨ざらしになるので都度片付けているが、重りの石を入れている為毎回の移動がちょっと大変。」
- ・ 「用意したゴミ箱以上の容量が出ると困る。」
- ・ 237 件の類似意見

景観・見た目（47件、2.1%）

- ・ 「景観に変化が出ていること。」
- ・ 「家の外観が悪くなった。」
- ・ 「防犯の面でプライバシーが十分に保護されていない。街にゴミ箱があふれる景観になった。」
- ・ 「容器に入らない時は、そのまま置くことになるので、景観が気になります。」
- ・ 他 43 件の類似意見

臭い・衛生 (20件、0.9%)

- ・ 「我が家は坂の途中にあり、回収されている方の負担を見ていると、心苦しくなります。ポリバケツで出しているお宅が多いようですが、夏場は回収の方が蓋を開けたらとても臭いと思います。」
- ・ 「ゴミ出しの負担が減ったこと、燃えるゴミの臭いを考えると各戸のゴミ箱で対応できて良いと思います。クリーンステーション近くにお住まいの方に申し訳なく思っていましたので。」
- ・ 「戸別収集によって、ゴミ収集車の負担が増えている、収集時間が遅いので匂いや動物被害の問題がある。」
- ・ 「ゴミ収集する方の負担が大きくなった。ごみ収集時に一時的にゴミを置くことが衛生面で問題。景観が悪い。」
- ・ 「我が家は蓋付きのポリバケツで出しているが、密閉されていない家の周辺からは、気温が上がり臭いが色々している。戸別回収なので仕方ないと思うが。」
- ・ 他 15 件の類似意見

プライバシー (22件、1.0%)

- ・ 「生理用品などを捨てる際に、見えないようにはしているが個人が特定できるためプライバシーの心配がある。容器を新たに用意したり、保管する手間がある。」
- ・ 「最初の頃は、ゴミ袋にネットを被せて捨てたらカラスがゴミを漁っていて、自分の家の前にゴミが散乱したことがあります。家の前にゴミが散乱していたので、ゴミの出し主が分かってしまい恥ずかしい。」
- ・ 「治安上大いに問題ある。仕事から帰宅するまでゴミ容器を入口に出しっぱなしなので不在であることが一目でわかってしまう為。ゴミ容器なしだとカラスに漁られてゴミが散乱することになる。戸別収集は止めてほしい。」
- ・ 他 19 件の類似意見

風・飛散 (47件、2.1%)

- ・ 「帰りが遅くなるときにゴミ箱が片付けられないので風で飛ばされたり不法投棄されないかなど心配。」

- ・ 「毎度ゴミ出しのケースを自宅玄関前に出さなくてはならず、不便。雨風の強いときなどは、ケースが飛ばないように重しや紐などで固定する工夫も必要です。収集する作業者の方の負担も増えたのではないのでしょうか。」
- ・ 「朝から仕事だと、夕方までゴミ箱がずっと出したままの為、留守だとすぐにわかってしまう。近所のゴミ箱が風でよく飛んでいる。重石をのせる徹底が必要。個々でまわるのは、回収の方が大変そう。特に夏場。」
- ・ 他 44 件の類似意見

盗難・不法投棄 (8件、0.4%)

- ・ 「鎌倉市の指導でゴミを入れる容器を自宅駐車場の前に出すため、ゴミ出しの後に容器を片付ける必要があり、二度手間になる。観光客が容器内にゴミを不法投棄するので、このゴミを自費で捨てる事になる。」
- ・ 「ウチのゴミ収集場所に不法投棄する者がいる。注意用のプラスチック板でもあれば欲しい。」
- ・ 「クリーンステーションに不法投棄されるゴミが増えた気がします。」
- ・ 「ポリ容器の盗難を心配し、該当曜日以外には、いちいち家に撤去するのが、少しわずらわしいといえそうです。」
- ・ 他 4 件の類似意見

収集時間・タイミング (59件、2.7%)

- ・ 「外出して帰宅時間が遅い場合にごみを出せなくなった。容器を出しっぱなしにできないため。いつ収集に来たのかわからないため、容器を取り込むのが遅れるときがある。」
- ・ 「容器をしまう必要はある。在宅していれば、容器の片付けはすぐのできるが、外出時は出しっぱなしになるので、そこが気になる。」
- ・ 他 57 件の類似意見

分別・ルール (23件、1.0%)

- ・ 「戸別収集にしても、認知症の人はクリーンステーションに出すので、それを近所で協力して片付けるの繰り返し、ステーションならば、みんながそこ

に集まるため、間違っ出そうとしてくる人がいる時に、出会う確率が高い。」

- ・ 「戸別収集前からクリーンステーションのゴミネットに皆さんきちんと入れていたので、煩雑さなどは前と変わっていない印象です。」
- ・ 「個々の敷地内に、ネットボックスやゴミ箱を設置することとなっていたかと思いますが、隣人の方が共有場所に設置している為、カラスの被害があった際こちらにも影響があり大変迷惑になっています。」
- ・ 「1、プライバシーが侵害されている。誰が出したゴミか分かるため、きちんと分別していてもとても気になる。2、カラスが来る頻度が増えた。以前は全くいなかったのに、今は庭の周りをうろうろしている。」
- ・ 他 19 件の類似意見

費用・コスト (133 件、6.0%)

- ・ 「近所とのコミュニケーションが減った。個人負担が増えた。」
- ・ 他 132 件の類似意見

収集員・作業 (208 件、9.3%)

- ・ 「収集車の方の負担を懸念している。旅行など長く家を空ける際に容器をどうするか、防犯面で気を遣う必要がある。」
- ・ 「良くなかった点ではありませんが、収集していただく方の負担は相当だと感じています。」
- ・ 「ポリバケツの出し入れの負担が増した。収集される方の負担が増して申し訳なく感じます。」
- ・ 他 205 件の類似意見

その他 (318 件、14.3%)